

# 平和憲法・9条をまもる

## 岩手の会 ニュース No.72

2011.9.6

発行：平和憲法・9条をまもる

岩手の会 事務局会議

連絡先 県生協連・県消団連

TEL019-684-2225

FAX019-684-2227

### 環境学習講演会「チェルノブイリから学ぶ とうわ九条の会 ～福島原発の今と私たちの暮らし～」

とうわ九条の会では、8月2日午後7時より、東和総合福祉センター大ホールで環境学習講演会「チェルノブイリから学ぶ～福島原発の今と私たちの暮らし」を開催しました。NPO法人チェルノブイリ救援・中部理事の河田昌東氏を講師に参加者110人が原発事故の影響についてなどを学びました。

河田さんは1986年に原発事故が発生した旧ソ連（現ウクライナ）のチェルノブイリで、被災者への医療・物資支援や、土壌から放射能を吸収する菜の花プロジェクトに取り組んでいる方です。

福島第一原発から放出された放射能について河田さんは「大気、水とあわせチェルノブイリ約30%に当たる」と説明。汚染された食べ物などを通じた内部被ばくを心配し「放射性セシウムを体内に取り込んだ場合は、かんきつ類の果肉に含まれる天然多糖類のペクチンを摂取すると回復が早まる。」と話されました。

参加者からは「マスコミやテレビの影響が強く、間違った認識をしていることが多かったと気づきました。正しい知識を得ることが大切だと改めて感じた。」「原発はすべて1日でも早く止めなければと思った。」などの感想が多数寄せられました。

今後もメンバーとともに、憲法九条との関連性を話し合い、趣旨がぶれないような学習会や企画を開催し、活動していきたいと思います。  
(とうわ九条の会 武政美紀子)



### 1-モアヒロシマ、1-モアナガサキ、1-モアフクシマ

原水爆禁止世界大会2011年に参加させていただきました。今年の大会は、NPT再検討会議から1年後、そして何より東日本大震災津波での福島原発問題がどのように位置づけられるのだろうかということをも自分の眼で確かめたいという思いからの参加でした。



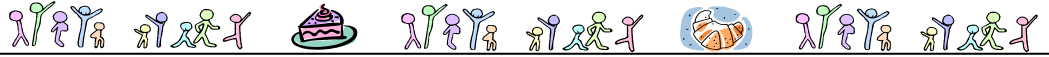
反核平和マラソンで集まった折り鶴  
1万羽以上を持参

初日は7千人を超える開会総会后、「核兵器をなくす青年交流集会」に参加しましたが衝撃を受けたのは、小森陽一さんの話にあった日本での原子力発電所導入についてでした。皆さんはご存じかもしれませんが、日本で初めて原発に予算を投じたのが中曽根康弘元首相であり、それも1954年3月3日に突如予算化。更には、その予算額が原発に使用可能なウランの原子記号235を誤った2億3千5百万円だったということを知りました。こんなに国民を馬鹿にしたことはないのではないか？という憤りでいっぱいになりました。

また、7歳で被爆した橋口さんの話を聞きましたが、当時は差別されるということから両親からも被爆したことは伏せるように言われてきたということでした。最後に谷口さんは、「被爆体験は風化させてはならないもの」「原発と共存はできない」と私たちにメッセージをくださいました。

日本は唯一の被爆国であるはずなのに再び被爆者を生んでしまった事、2度とこの惨劇を繰り返してはなりません。福島原発問題を早期終息させ、原発に頼らない社会へエネルギー政策の転換を進める必要性を強く感じました。未来を担う子供たちに負の遺産を引き継ぐことがないように…  
(自治労連 菅原勇弥)





8月5日(金)いわて生協ベルフ山岸店2階にて、中津川九条の会6周年記念「平和映画&戦時中のおやつ体験」をいわて生協盛岡中央コープと共催で開催しました。



あいさつの後、アニメ「キクちゃんとオオカミ」(野坂昭如原作)を鑑賞。昭和20年の満州、引き上げの途中でハシカにかかり、置き去りにされた幼い少女キクちゃんと、群れから追い出された老オオカミの出会いのお話で、45分と短くてもずっしり心に響きました。

その後、中津川九条の会メンバーが午前中から作った手づくりのおやつを試食。昔風おやつとして、小麦粉・重層・ささげ豆・くるみを混ぜてこね、饅頭にして蒸したものや、さつま芋を蒸してつぶし小麦粉と混ぜ、饅頭にして蒸したものなどをみんなでいただきました。「おいしい」の声に、「昔はこんな砂糖が入っておいしいものではなかっただろうね」と話し合いました。

会場には、参加者からの手づくり平和のパッチワークや盛岡弁で書かれた憲法9条、9条マスコットを飾りました。また、参加者から戦争中、戦後の体験談などお聞きしました。

参加者からは、「映画をみて、満州で終戦の後亡くなった姉の事を思い出しました。」「戦争は絶対やってはいけないことです。平和こそ人生の幸福です。」「泣きました。親子の別れに！戦争は人の命を殺す。オオカミに恥じる。」「レシピを頂けるともっと良かった。体験談は本当に良かった。」などの感想が寄せられました。



さつま芋入り饅頭

(いわて生協 組織本部 山崎宏美)

## コラム = 忘れてはいけない！日本国憲法9条に基づく「新しい日本」!

前回は日本経団連などの唱える「大企業の繁栄」中心の「新しい日本」と日本国憲法に基づき、一人ひとりの国民が尊重される「日本」は全く違うものであることを考えてみました。

しかし、もうひとつ考える必要のあるものに「日米(軍事)同盟」があります。これを日本であれば、日本人であれば当然視する「傾向」があると思います。「防衛白書」の発表では、防衛予算(軍事費)が約5兆円の巨額に達しています。これが北方領土の危機、竹島論争の激化、尖閣諸島問題等中国脅威論、北朝鮮核問題などへの備えであるかのように語られます。周辺国の肩を持つつもりはありませんが本当にそうでしょうか?

日本国憲法第9条に基づく「日本」とは、戦前の大日本帝国憲法(明治憲法)下の日本とを厳しく反省して「戦争の放棄と戦力及び交戦権の否認」の「新しい日本」を建設することにしました。日本国憲法が施行されて間もなく、当時の政府・文部省は副読本「あたらしい憲法」を作成、小中学校に配布し、平和国家「日本」の建設に情熱を燃やしていました。そうであれば周辺国との戦後の国際関係は「新しい、平和な国際関係」になっていたはずですが。これは九条の会の趣旨とピッタリです。それがアメリカ政府から日本国憲法に反して、「日米安全保障条約」を押し付けられてから日本は反対の方向に走り、前述したような「日本」になっています。「(唯一超軍事大国の)アメリカと組んで軍事訓練を繰り返す韓国や日本は中国やアジアから見ると大きな脅威」であり、「アジアで軍事同盟は日本と韓国だけ」なのです。

この点でも「改憲論・日米(軍事)同盟重視」の日本経団連等の「新しい日本」と九条の会の「新しい日本」は相違するものであることを広めることが重要だと思います。(事務局)